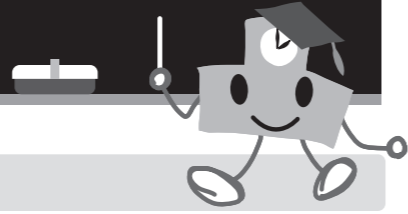


中学校の事例 中央区 柏中学校

花の数を競って、リングプルを回収。中央区の中学生の力を結集した「チョボラ」に参加。

中央区のすべての中学校が参加し活動を行っている「チョボラ中学生の会」。事務局校として、リングプル回収のためにクラス対抗で工夫をし、思いやりの心を育て、資源回収に取り組んでいる。



はじめに 身近で無理なく継続を

本校では、「人のためになり、身近にあるもので無理なく継続できる活動をやりたい」という生徒会長の呼びかけで、平成13年からリングプル収集活動が始まった。当初は校内だけの取組だったが、1校では車いすに交換するのに時間がかかることから、平成15年に区内の4校にも協力を呼びかけ、「チョボラ中学生の会」が発足した。現在は、区内のすべての中学校とひまわり分校が参加する活動となっている。チョボラは「ちょっとしたボランティア」の略であり、このようにひとつの区で連携して行うボランティア活動はめずらしく、生徒会サミットなどでも特色ある活動として紹介されている。



生徒会室前のようす

内容 クラス対抗でリングプルを集め 収集意欲を高める

本校は、「チョボラ中学生の会」の事務局校となっており、各校で集められたリングプルのとりまとめを行っている。平成21年までに16台の車いすと交換し、平成22年度も12月に各校の生徒会長や学校長が参加して、身体障害者福祉協会への贈呈式が行われた。今回は、9校で集めた1,734Kgのリングプルを車いす2台と交換した。そのうち本校では約150Kgを集めることができた。

リングプル収集は、生徒が家庭からもってくるものだけでなく、地域のコンビニなどにも回収箱を設置させてもらい、たまったら連絡をもらい回収している。地域の人たちもたまったものを学校まで持ってきてくれるなど取組に協力してくれている。



各クラスに置いているリングプル回収ボックス

また、生徒会では、「チョボラだより」というおたよりを年に4回ほど発行し、回収の呼びかけや、贈呈式のように、他校の取組などを報告している。ほかには、収集の意欲を高めるねらいをもつ、「ブル咲き山」という活動も行っている。これは各クラスでペットボトル1杯分のリングプルをためて生徒会室へもっていくと、生徒会室前の掲示板に自分のクラスの色の花が貼られるものである。花の数を公開することで、お互いのクラスの競争心が高まり、リサイクルの取組が深まるように工夫している。



ブル咲き山

今後 環境や地域への貢献を 自発的に考える

贈呈式に出席した生徒会長は「一人一人の小さな善意を集めることで、社会を動かし、社会を変える大きな力になる。これからもボランティアの輪を広げていきたい」とスピーチした。贈呈式を行うにあたっては、参加者の整理や情報の収集などの苦労もあるが、この式を行うことで、「自分たちの集めたリングプルが本当に車いすになるんだ」と実感できる意義の深い式典であると考えている。

これからも相手を思いやる気持ちを持ち、「チョボラ」の精神で活動していくことが、身の周りの環境や地球環境の保護について考えようとする心を育てることにつながっていくと考えている。



車いす贈呈式

広げよう
つなげよう
環境学習の輪

実施校から
メッセージ

本校では、リングプル収集を始めて、10年近くになり、活動も軌道にのっているため、特に苦勞していることはありませんが、活動がマンネリ化しないようにいろいろな方法でPR活動をしたり、呼びかけを行っています。他にも環境以外のボランティア活動を多数行っているため、これ以上の活動を増やすのではなく、現在の取組をもっと充実させていきたいと考えています。